

みなさんこんにちは、県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。

昨夜の2度にわたる大きな地震には非常に驚きました。その後も何度も揺れたこともあり、眠れない一夜を過ごした方も多いのではないかと思います。県内外で様々な被害がニュースなどで報道されていますが、被害にあわれた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

さて、我が家の次男（6歳）は、今、兄貴（間もなく11歳）に勝つために必死です。何でもいいからとにかく勝ちたいらしく、相撲・プロレス・縄跳び・トランプ・カルタ・紙飛行機・なぞなぞ・湯船にどれだけ長く浸かっていられるか等、毎日様々な勝負を挑んでいます。

体格も知識の量も違うのに加え、兄も手加減をしないし、ハンデもつけないので、全く歯が立ちませんが、へこたれることなく、今日も目の前の壁に立ち向かっています。

この「へこたれない力」について国立青少年教育振興機構が調査を行っています。

多少の困難や逆境にも負けない「へこたれない力」を子どもに身に付けさせるには、どうすればよいのでしょうか。

打たれ強い人間に育てようとして、ついつい子どもを叱ってしまいがちになりますが、逆に、叱るよりも褒めたほうが、将来、へこたれない大人になる確率が高いことが、調査結果からわかりました。

この調査は2016（平成28）年に、子ども時代の体験と現在の資質がどう関係しているかを調べるため、20～60代の男女を対象に実施したものです。

調査では「社会を生き抜く資質・能力」として、「意欲」「コミュニケーション力」「自己肯定感」に加えて「へこたれない力」を挙げています。

ここ数年、日本の就職活動でも、多少のことではへこたれない「打たれ強さ」を重視する企業が増えているそうです。「へこたれない力」は、これからの社会を生きるうえで、最も重視される力の一つだと言えるでしょう。

では、子ども時代のどんな体験が「へこたれない力」の育成に役立つのでしょうか。

子どもの頃、親に褒められたことが多く、叱られた経験の少ないグループでは、「へこたれない力」の高い層は30.9%だった一方、褒められたことが少なく、叱られたことが多いグループでは20.1%でした。子ども時代に叱られた経験よりも、褒められた経験の多い者のほうが「へこたれない力」が高いようです。先生や地域の大人との間でも同様の傾向が見られました。

また、子どものころにしつけなど「基本的な生活習慣」「お手伝い」「家族行事」などの経験の多い者ほど「へこたれない力」が高く、公園で友達と遊ぶなど「集団での外遊び」や「自然の中での遊び」の多い者や、小学校と中学校時代に「体育祭や文化祭の実行委員」などの経験のある者ほど「へこたれない力」が高いということもわかりました。

我が家の「へこたれない力」の育成法は、少し方向が間違っていたようですが、これにへこたれることなく軌道修正していきます。

幼少期からの多様な経験と、学校での主体的活動、そして保護者・地域の方々の温かい眼差しで、これからの未来を担う子どもたちの「へこたれない力」を育てていければと思います。

【雲外蒼天（うんがいそうてん）】

雲を突き抜けたその先には、青空が広がっているということ。転じて、「努力して壁を乗

り越えれば、素晴らしい世界（達成感・喜び）が待っている」といったことを指す。

※調査についての詳細は、こちらをどうぞ。

国立青少年教育振興機構「子供の頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」

http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/117/

子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★